

死体腎移植における選択肢提示の諸問題に関する研究

研究分担者 加藤 庸子 藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院・脳神経外科 教授
研究協力者 小野 元 聖マリアンナ医科大学脳神経外科 准教授

研究要旨：

改正臓器移植法の施行に伴い脳死下臓器提供数は増加したが、臓器提供全体数は減少しておりその原因は心停止下臓器提供の減少にある。そのため我が国の移植待機数と提供数のアンバランスはさらに増加している。救急医療現場における選択肢提示やドナー管理負担や日常業務負担に対して本研究では臓器提供における負担軽減、家族へのグリーフケアや協働、特に終末期医療の選択に対するサポートや説明と同意等に対応することにより心停止下臓器提供ガイドラインを提言する。

A. 研究目的

臓器提供可能医療機関における負担軽減は必要不可欠である。これまで課題とされる負担にはインセンティブや脳死判定時間や事務的処理等が注目されるが、より大きな課題は入院後の家族への説明や承諾に至るまでの過程における臓器提供へ対応が通常業務と異なることにある。本研究では特に心停止下臓器提供の承諾における課題解決を目的とする。

B. 研究方法

臓器提供可能施設における臓器提供への選択肢提示と家族の希望を合わせて終末期対応の現状を勉強会の形で検証した。

（倫理面への配慮）

個人情報の扱いについては十分考慮しPCにおける情報はPWによるロックをかけ、書類については鍵付きロッカーでの管理を行うなどの対応により厳重に管理する。

C. 研究結果

2017年10月6日、場所：藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院）において勉強会を開催した。座長：加藤庸子（坂文種報徳會病院脳神経外科）、朝居朋子（藤田保健衛生大学医療科学部）、宮谷京佑（坂文種報徳會病院脳神経外科）、講演者：小野元（聖マリアンナ医科大学東横病院脳神経外科）、剣持敬（藤田保健衛生大学医学部移植・再生学）、織田順（東京医科大学救急災害医学）、愛知県下の多くの提供可能病院、多職種の医療者の参加により開催した。

内容；「オプション提示の共有化と家族との協働」

（担当 小野）「我が国の移植施設の課題～JOT移植施設委員会報告～」（担当 剣持）「オプション提示の勘違い～移植医療に関する情報提供からはじめよう～」（担当 織田）。

D. 考察

愛知県下におけるポテンシャルドナーへの対応は各医療機関においても差があり院内体制整備に対する対応の必要性が再認識された（剣持）。また東京医科大学では選択肢提示は行わず、ベッドサイドで情報提供といった方法で臓器提供への機会があることを患者家族に伝えているとのことであった（織田）。最後に臓器提供では脳死下提供とは異なり負担は呼吸器調節、点滴調節、カニューレーション、ヘパリン投与等についても終末期対応として承諾を取るべきではないかとの意見があった（小野）。

E. 結論

各地域、各医療機関において臓器提供への対応はそれぞれであるが、課題の中心は救急現場における通常医療行為や説明と臓器提供に対する医療行為や説明のギャップに医療スタッフが未だに困惑している点にある。今後、国民が通常医療と同じように、提供の機会が選択でき、終末期医療の議論の中で医療者と共に進めることが、より重要であると思われる。

F. 健康危険情報

G. 研究発表

1. 論文発表

日本脳死・脳蘇生学会雑誌に投稿予定あり

2. 学会発表

小野元、中村晴美、田中雄一郎、力石辰也、加藤庸子。我が国における心停止下臓器提供について。第51回日本臨床腎移植学会
2018年2月15日 神戸

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし